

## 第6学年 音楽科 授業構想シート

授業者 内垣 美佳

本実践の主張点	<p>学校行事や他教科との関連を図ったカリキュラム・デザインをすることで、「串本節」の魅力を多様に発見することができるであろう。さらに、知識や技能の習得に偏ることなく、体全体で民謡の特性を感じ取る表現活動を取り入れることで、郷土の音楽に親しみをもち、よさを一層味わいながら、郷土の音楽文化を継承、発展していこうとする探究力を育成することができるであろう。</p>
---------	---

1. 題材名 郷土の音楽に親しもう～「串本節」の魅力を伝えよう～

### 2. 6年B組の子ども

<p>1学期に「串本節」の鑑賞と歌唱の活動を行った。歌唱の活動では、体験を通して民謡の音楽的な特性を感じ取ることができるようにしたいと考え、範唱を真似ながら声を合わせて歌う活動を取り入れた。1学期の授業を通して、「昔から歌われていて歴史がある」「おじいちゃん、おばあちゃんだけでなく、子どもでも歌いやすく楽しめる」「アレンジしやすそう」など、「串本節」のよさや面白さを感じ始めた子どもたちの姿がある。最も印象的だったのは、「地声で歌えるのがいい!」と言い、日頃の歌唱の授業ではあまり声が出せない子どもたちが楽しそうに歌っていることであった。2学期は、器楽の活動を中心に授業を展開する。題材の終わりには、「串本節」に愛着をもち、郷土の音楽を多くの人に伝えようと学年全員で表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり合奏したりする子どもの姿をめざす。</p>
---

### 3. 何ができるようになるか

探究力	省察性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔から大切に守られてきた「串本節」の歴史や文化を、曲の特徴や曲想と関連付けながら鑑賞する力。(鑑賞力)</li> <li>・「串本節」に愛着をもち、多くの人々に和歌山や「串本節」のよさを伝え、広めようと、思いや意図をもって表現する力。(表現力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民謡がどのように変化しながら現代に伝えられているのかを考えながら聴き、郷土の音楽の良さを見出す力。(鑑賞力を支える省察性)</li> <li>・いろいろな演奏方法を試しながら、工夫して表現を創り上げていく力。(表現力を支える省察性)</li> </ul>

### 4. 何を学ぶのか

#### ①題材の目標

<p>民謡のよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、協働して音楽活動をする楽しさを味わうことができる。</p>
--

#### ②教材の価値

<p>本題材では、和歌山県の代表的民謡であり、全国的に有名な「串本節」を教材とする。江戸時代末期からの長い歴史をもつ串本節の教材価値は次の2点であると考え、①拍ののったリズムで、手拍子を打ちながら真似をして歌いやすい。②様々な表現形態で演奏されている。</p> <p>また、器楽では、大柿かおる氏によって編曲された器楽合奏用の「串本節」を教材とする。4分の2拍子でJ=92と楽譜に記されており、原曲よりも速い。原曲のもつ明るい曲想はそのまま残っており、主な旋律をリコーダーや鍵盤ハーモニカが担当し、アコーディオン、キーボード、木琴、鉄琴などが主な旋律と副次的な旋律を行き来する。低音パートは低音オルガンとバスアコーディオン、リズムパートは和太鼓、すりかね、チャップパである。</p>
---

③学年間・教科間のつながり（本題材におけるカリキュラム・デザイン）

総合的な学習の時間では、「串本節」に関する情報収集と学習への意欲喚起をするために、各担任と連携を図り、昨年度の南紀旅行も思い出させながら、串本地方の地理や風土、文化的な関わりの学習に取り組む。特別活動では、ゲストティーチャーに踊りを教えてもらい、身体表現する中で「串本節」のよさや面白さをさらに感じ取らせ、運動会との関連も図る。道徳科では、内容C「主として集団や社会との関わりに関すること」の「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」について学習をする。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

くらべる    つなげる    まとめる    広げる    予想する    見方を変える

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

題材計画（全 11 時間） 本時 10/11+α

次	時	題材の指導計画	評価規準	題材における授業づくりのしかけ
音楽 第一次	1	・和太鼓鑑賞に出かけよう	アー①	探究力を育む  ①鑑賞，歌唱，器樂を関連付ける。様々な表現形態による演奏を鑑賞したり，他の民謡と比較鑑賞したりしながら，民謡特有の声の音色や発声の仕方，リズムなどを知覚・感受させる。 ②和太鼓演奏を実際に鑑賞したり，ゲストティーチャーから踊りを教えてもらう機会を設けたりする。
	2, 3	・串本節の曲想を感じ取って，民謡のよさや面白さを味わって聴く	ウー①	
	4, 5	・民謡特有の歌い方を感じ取って声を合わせて歌う。	アー② イー①	
	6, 7	・和太鼓パートや，旋律の特徴を生かして主な旋律を全員で演奏する。 ・楽器の分担を決めて，自分のパートを演奏する。	ウー② アー③ ウー③	
総合		・串本地方について知る ・串本節と人々との関わりについて知る		
道徳		・伝統と文化の尊重について考える		
活動特別		☆踊りゲストティーチャー（運動会との関連を図る）		
第 次 音楽	8, 9	・個人演奏，パートで合わせる⇄全体で合わせる ・どのような演奏にしたいか思いや意図をもつ。	イー② ウー③	省察性を育む  ①自分達の演奏を録音して聴く等，思いや意図が伝わる演奏になっているか確かめる。 ②振り返りをして，自分の成長や友だちとの関わりによって出来たこと等を言語化させる。また，次の学習へ生かしていけるように全体で共有する場を設ける。
第 三 次 音楽	10 11	・自分たちの思いや意図に合った演奏の仕方を工夫し，音を合わせて演奏する。	アー③ アー④ イー②	

6. 何が身に付いたか

	ア、知識・技能	イ、思考力・判断力・表現力	ウ、主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①民謡のよさや面白さを感じ取り，民謡特有の声の音色や節回し等の音楽の構造との関わりについて気付いている。(鑑) ②曲想に合った自然な歌い方で歌えている。(歌) ③楽器の音色や旋律の特徴に気を付けながら，表したい思いや意図に合った演奏の仕方演奏している。(器) ④各声部の楽器の音や全体の響きを聴きながら，音を合わせて演奏している。(器)	①範唱の歌い方に近づけるように，歌い方を工夫したり，息の使い方を意識したりしながら歌おうとしている。(歌) ②互いの楽器の音，リズムや旋律の重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら，曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器)	①民謡の特徴に興味をもち，曲想や音楽の構造に気付いて鑑賞している。(鑑) ②主体的に民謡を歌う活動に関わり，仲間と声を合わせて歌う活動を味わっている。(歌) ③互いの楽器の音，リズムや旋律の重なりを聴き合いながら，曲の特徴にふさわしい表現の工夫をし，協働的に合奏する学習に主体的に取り組もうとしている。(器)

〔共通事項〕 ア音色，リズム，強弱，音の重なり／イ反復，変化

和歌山大学教育学部附属小学校